



Furuta Atsuya

アスリートアンバサダー
古田敦也さん
(野球解説者)

震災復興のため、東北だけでなく日本中から人を集め意味のある大会にしたいという主催者の熱い思いに賛同し、初回から参加しています。

このイベントは、東北のグルメや日本酒がたくさんあり、走らない人も楽しめ、笑顔の多いマラソンだと感じています。これだけ東北の蔵が集まったら、少しずつ全部飲んでみたいですね。

今の時代、東京にいても地方のものを食べられます。でも、その地方に行って食べると格別なんです。地方へ来る良さは地元の人たちと出会うこと。土地の人たちと交流することで、地域の文化を感じることができます。こういったイベントは、イベントだけではなく、地域の風土と人の魅力に触れられる貴重な機会だと思います。



Sugiyura Taiyou

大会アンバサダー
杉浦太陽さん
(俳優)

ハーフですが、人生初マラソンに挑戦しました。あまり走ることに自信が無かったので、これまでは敬遠していました。東北は、仕事やプライベートなどで縁があるので、少しでも力になればと参加しました。マラソンは、地元の人やボランティアの皆さんが声を掛けてくれ、東北の食材を食べたり飲んだりしながらだったので、本当に楽しかったです。長沼の景色や沿道の温かい声援が力となり、完走できました。初めて走ったのが登米で良かったです。

このイベントは、走らずに応援するのも楽しみ方の一つ。みんなが、つながる感じはとてもすてきです。祭りは、伝統を継承したものが多くです。しかしこれは、皆さんが新たに作り上げたもの。何十回と続き、この地の伝統になってほしいです。



Tatsuimi Takuro

フードアンバサダー
辰巳琢郎さん
(俳優)

東北とはご縁が深く、震災前から100回以上は訪れています。アンバサダーとして昨年も参加していますが、今年はフードアンバサダーとしての参加です。風土はフードにつながる。だから徹底的こだわってほしいですね。マラソンに付随したものでなく、それ自体のクオリティを高め、もっともっと注目され来場者を増やしていただきたいと思います。

会場の長沼は景色が素晴らしくイベントには多くの方がいらしていますが、すぐ結果が出るものではないので、登米と言う名前を日本中に知ってもらうためにも長く続けてほしいと思います。行政も市民の皆さんも大いに参加して、地域の宝物となるようなイベントに育ててほしいですね。

盛会裏に終わったこのイベント。これだけの規模のイベントは、市内だけでなく県下有数のもの。スポーツと食に遊びが絡むという珍しさ、そしてそこに並ぶもの全てが一級品である企画の良さ。そして、企画運営に当たり、市内だけではなく、全国的に人、企業や各種団体が、有機的に絡み合ったところに成功の秘密が隠されているのではないだろうか。

一般的に、市内で開催されるイベントは、市民、市内企業や団体などの内だけの「協働」となりま。しかし、今回は市内だけではなく、市外の人、企業や団体が関係しての実施。これまでのイメージよりスケールの大きい協働の形になります。

イベントの成功という一つの目標に対して、目標を共有し、互いの特性を生かし協力。そして活動した結果が成功につながっています。昨年実施された1回目のマラソン&風土博覧会のランナーアンケートで、実に97%の人が「満足した」と回答しています。前回より多くの参加者や来場者が集まったことを考えれば、今回も同様の満足度になると予想されます。

「協働」は英語で「コラボレーション」と訳されます。市内外の人、企業や団体のコラボレーションの結晶が、成功に導いた要因の一つです。

02
奏
Collaboration

コラボの相乗効果—
盛会裏に終わった一大イベント
成功の鍵はイベントの魅力も
さることながら市内外を問わず
多くの人が奏でた力の結晶



東北風土マラソン&
フェスティバル実行委員長
Yasuhiko Abe

阿部泰彦さん

多くの皆さんの支援と協力で無事イベントを開催できました。

東日本大震災以降、南三陸町の支援を続けてきました。その活動の中で副実行委員長の竹川さんと出会いました。彼は、メドックマラソンを東北で開催したいと話していました。「これは登米市に合う」と思い賛同しました。本市は食材の

宝庫。コメ、肉や野菜、どれもが一級品で、沿岸部とコラボレーションすれば、農産物と海産物がそろい、ランナーはもちろん、多くの皆さんに喜んでもらえると思います。それに、長沼のロケーションはみんなに誇れるすばらしいものですから。

仕事柄、市外の人と多く接しますが、登米市の認知度は残念ながら低いです。県内でも南に行くとも知らない人が多いですよ。全国から人が集まったこのイベントをきっかけに、どんどん「登米市」をアピールしていきたいと思っています。

今回も、いろいろと学ばせてもらいました。その中でも特に、外からの意見に耳を傾けることが重要だと感じました。竹川さんをはじめとする市外のスタッフからいい刺激を受けました。

Interview
イベント参加者に聞く



Kiyoshi Sakurai
櫻井 清さん (米山町：サクライ農産)

多くのランナーが、マラソン終了後商品を買ってきてくれました。「補給時にムースがおいしそうで食べたかった。多くの人が並んでいて、タイムに影響するから諦めた。でもどうしても気になったんで」と。この仕事をしていて本当に良かったと思えましたね。このイベントが明日への活力にもなりますよ。

Kazuhito Sakatsume
坂詰和仁さん (千葉県船橋市：絆リアス)

登米市観光物産協会とのつながりから出店しました。市内と一部市外の出店かと思っていたら、東北全域から集まっていた驚きました。東北に元気を与えるイベントだと感じました。これからも三陸のわかめを使い、東北の復興に役立てればと思っています。それと見ていて楽しそうだったので、マラソンに挑戦したくなりました。



Miyoko Nagasaki
長崎美央子さん (東京都)

メドックマラソンを走ったときにこのイベントを知り、参加しました。伊豆沼農産のウインナーや油麩餅がおいしかったです。メドックは、仮装が義務でお酒を飲みながら走れるので、お祭り要素が強いです。登米もそのようにできれば、もっと面白いと思います。市内宿泊施設の対応の良さ「おもてなし」がうれしかったです。

Satoshi Aoshima
青島 聡さん (仙台市)

今回初めての参加で、初のフルマラソンでしたが、完走できて良かったです。この大会は友人に教えてもらいました。学生最後の年なので、思い出づくりに2人で参加しました。地元の人たちの声援が力になり、完走することができました。楽しく走れたので、次回は多くの友人と参加したいです。



Eri Toukairin
東海林枝里さん (福島県郡山市)

イベントのホームページを見て参加しました。ボランティア活動をしたのは初めてです。岩手県釜石市の出身なので、復興支援になればと思い参加しました。マラソンなので、給水所での仕事をイメージしていました。キッズコーナーの担当でびっくりしましたが、楽しくできました。

Wakana Satou
佐藤若奈さん (仙台市)

社内の掲示板を見て、ボランティアに参加しました。食べ物やお酒があるのも魅力でした。今日の仕事は、忙しかったですが充実していました。地元の人やボランティア同士の交流もあり楽しかったです。ランナーもスタッフも全国から集まるこのイベント、本当にすごいと思います。

